

各位

NO80

2017年5月11日(木)

桜丘高等学校 生徒会

孫便りの会・生徒一同

～今日で東日本大震災から6年2カ月が経過～

＜気仙沼の現況＞

震災発生から6年2ヶ月が経過した現在、気仙沼はいったいどのような状況なのでしょう。いくつかの視点でお伝えしたいと思います。

まず、仮設住宅と災害公営住宅に関してです。4月30日現在の仮設住宅への入居戸数は826戸で、最大であった平成24年の3360戸から比較すると入居率は23・6%となっているとの事です。災害公営住宅の方ですが、気仙沼駅前に建設中の災害公営住宅2棟のうち、残り1棟が今年5月末に完成すれば、現在仮設住宅に暮らす家族に住んで頂けるだけの戸数は完成するとの事でした。但し様々な家庭の事情もあるので、平成31年度中には全ての仮設住宅を撤去する予定との事です。

次に、土地のかさ上げに関してです。地盤沈下してしまった土地は広範囲に渡っているそうですが、地盤整備後の土地利用の問題等もあり、全てをかさ上げするという訳にはいかないという事でした。それでも、平成32年度中には事業完了予定で、国とも調整をしながら実施していくとの事です。

最後に防潮堤に関してです。計画中の総延長距離は9740mだそうです。現在は工事予定32カ所中の6カ所で工事中という事で、全ての完成予定は31年度末だという事です。調整も含めてまだこれからといった部分があるように思われます。こういった様々な事情からも、まだまだ継続した支援の必要性を感じていますので、今後とも豊橋市の皆様のご支援、ご協力宜しくお願い致します。

＜気仙沼明海荘の女将さんから見たこれまでの活動報告＞



私たち桜丘高等学校が気仙沼支援活動を始めて6年が経過しましたが、その間の宿泊を当初から受け入れてくださった気仙沼大島の明海荘の長女と長男の二人が、桜丘高等学校に入学し、そして昨年長女が、そして今年は長男が成長して無事卒業して行きました。計4年間、本校に御子息、御息女を送られる中で感じた震災被災者としての気持ち、

そしてその後の親としての成長を今回桜丘高等学校にて語っていただけることになりました。私たち桜丘高等学校では生徒だけでなく、教職員や父母もこういった活動の中で気づきと共に成長させてもらっています。